



増税の中止こそ最大の家計応援・景気対策



3・30 池袋東口 経営者も起つ!



4・1 浅草雷門前で

消費税10%への増税ストップ!

消費税増税中止を求める経営者の会が宣伝

3月30日午後5時、JR池袋東口「消費税10%NO!、増税は許さない」の黄色ののぼりが林立し、消費税増税に反対する中小企業の社長さんたちが宣伝・署名行動に立ちました。

これは、89年4月に消費税が導入されて3%から5%になったとき「こんなことは我慢できない」と第一経理事務所の呼びかけで経営者みなさんが立ち上がり、豊島区の民商、東京土建豊島支部も合流して、この宣伝行動が始まり、毎年続けてきて今年で21回目を迎えました。

当日は「増税中止こそ最大の家計応援・景気対策、消費税10%への増税ストップ」の横断幕を掲げ、東京産業懇話会の経営者のみなさんをはじめ第一経理事務所の税理士さん、豊島民商、東京土建豊島支部の代表が交代で「消費税は

岸の根が揺るぎません・税金問題

西東京の会

講演と第10回総会開く

消費税をなくす西東京の会は3月25日、西東京平和と労働会館で第10回総会を開きました。

安倍政権の軍事費拡大、社会保障制度改善、消費税10%を許さない声と運動を広げましょう!」と呼びかけ、東京の会元事務局長の川上允さんを講師に迎え学習を行いました。

総会では世話人体制を確認し「NO消費税」の購読者が40人になり、手渡しの配布体制を確立して、全読者を4月を起点にして、集金をしやすいようにして活動資金を生み出し、日常的にねばり強く活動を展開しています。

導入以来28年 全国で怒りの宣伝行動

全国・東京・台東の会が高層ビル前で宣伝

消費税が導入されて29年目を迎えた4月1日、全国と東京で怒りの宣伝・署名行動が各地で展開されました。

全国の会・東京の会・台東の会は合同で休日で賑わう浅草雷門で25人が参加して宣伝行動。消費税10%中止、当面5%にもどす国会請願署名と共謀罪許さない署名を訴えました。

「消費税納税額が28年間で349兆円、国民一人当たり272万円、社会保障は切り捨てられ続けてきた。いまこそ暮らしを守る政治に切り替えましょう」と訴えました。海外からの観光客も多く、横断幕をかかげる宣伝に物珍しくカメラを向ける

板橋の会

湖東税理士を迎えて総会と学習会

消費税をなくす板橋の会と消費税廃止板橋連絡会は3月24日、仲町地域センターで合同総会を開きました。

第一部の総会では今井事務局長が1年間の活動と全国の会及び東京の会の総会の要点を報告。4・1怒りの総行動と5月までの定例宣伝へ日程と参加を確認しました。

第二部の湖東税理士の「消費税とはいったいどういう税金なのか」との講演を学びました。会場いっぱいの人たちは「わかった」



人も少なくありませんでした。各地で怒りの行動

各地で怒りの行動

杉並の会

杉並の会は杉並民商カーと東京土建杉並カーを連ねて区内5カ所を宣伝して回りました。正午にJR高円寺駅に結集、その後メトロ新高円寺駅、西荻窪駅北口、荻窪駅南東口、JR阿佐ヶ谷駅南口で訴えて回りました。各地で原田都議候補も訴えました。

大田六郷の会

六郷の会は1日10時から雑色駅前での雨の中12人で宣伝行動、20人の署名をもらい、その後各地でそれぞれが宣伝行動を展開しながら夕方5時30分には蒲田

八王子の会

消費税の仕組みを知ろう川又秀夫世話人を講師に

消費税をなくす八王子の会は3月18日八王子労働会館で川又秀夫世話人を講師に「消費税のしくみを知ろう」と題して学習会を開きました。

税金は支払う能力に応じて所得の高い人に多く、低い人に少なくすることが原則、消費税は不公平な税制であることを学びました。パンフ16冊普及しました。



税制で

板橋の会

板橋の会では中根橋に集合し、桜の名所石神井川沿いに行楽にきた人々に声をかけ、中根橋商店街を2隊編成して行進し、安倍内閣の大企業への連続減税を中止し、法定税率どうり納税させれば消費税

は中止できると訴え、署名が51人の署名が集まりました。



写真は葛飾3・13重税反対行進

憲法9条と25条を擁護する闘いを築こう!

消費税10%中止・5%に、戦時法廃止をめざす学習会

くらしと平和を守る運動をひろげ

4月12日、全労連会館で「消費税をなくす全国会議」主催の「消費税10%中止・5%に、最低生活費非課税の原則」を侵害しており、「税と社会保障の一体改革は」安倍政権の自立・自助の生存権の形骸化であることをわかり易く講演。



特別報告として「福島県の生業訴訟の取り組み」をスピーチする社長で福島原発訴訟原告団事務局長の服部浩幸氏が「生業を返せ、地域を返せ」と福島の闘いと自ら原告の証言を述べ、参加者に「福島の真の復興へともにたたかおう」と決意を固めました。

築地中央卸売場の見学は私は今回で2回目でした。前回は平日で業者がせわしく動き回り、その間を荷物運ぶターレットが器用に走り回っていました。今回は祝日で人の動きはなく、がらんと空いている。その分築地市場の全体がよく見えました。仲卸の店舗は迷路のように広がって、裸電球がぶら下がっている。発砲スチロールの箱が積み重ねられて、そこに息づく経過と活気が感じられました。全日本からの荷物が運び込まれるターミナルのような所は、天井が高く大きくカーブしていて外国映画に出てくる終着駅のようなものです。驚いたのは2階から見える異様な光景でした。私たちの目の前でスパッと切れている高速道を

現代のゴーストタウン、新豊洲市場 第14回ウォッチングツアーに参加して

板橋区成増の会 白田弘子

奥に広がる近代的な建物群、しかしこの

福島県、楢葉町から東京を避難して暮らす山内信弘さんの回想

故郷 福島県楢葉町で「やぶそば」を再開したいが...

6年前の3・11東日本大震災・福島原発事故で東京葛飾区に一家で避難されて来られた山内信弘さん。「第11回税金のムダ遣いウォッチングツアー」に参加されました。6年を経た3月12日、東京新聞に1面と16面で大きく報道されました。一緒に参加した全国の会の仲間さんが3年前に取材した要旨を報告します。

3・11から満3年、振り返れば働きの日々になります。福島県双葉郡楢葉町の出身です。60歳。そば処(やぶそば)を営み22年、順調な日々でした。



あの日の2時46分、すさまじい揺れ。少し高い位置に置いてあったテレビは落下し、厨房のどんぶりが真横にぶつ飛びました。私はいくつか、寒さの中を白衣の上にジャンパーをひっかけ、レジにあつたお金をポケットに突っこんで逃げました。「高台に逃げてください」との放送で、公民館に行きました。津波も見ましたが、店には及ばなかった。2人の子供も連れて帰り、懐中電灯を照らして、お客さん用の小さな座布団を重ねて寝かせました。やがて届いた友人からのメール。「とにかく逃げる。遠くへ逃げる」と。原発の爆発で、車のおびただしい渋滞。ようやくやくいわき市の第6小学校の体育館に収容されました。配られたおにぎりはまるで氷のように固く冷たく、子どももお年寄りも嘔吐することができませんでした。私は給

食室の厨房に入り、おにぎりの梅干しの種だけみんなにとってもらい、厨房の冷蔵庫に残っていた食材を使わせてもらい、おじやを作ることを思いつき、700人ほどの方に食べてもらいました。

やがて、震災から3日たった14日夜、さらに遠くへ逃げることに。ひたすら子どもたちを守りたいの一心で、私たちがたどり着いたのは東京都葛飾区水元でした。美容院をやっている兄を頼って上京し、水元の公営住宅に落ち着きました。

私は、男ばかり5人兄弟の四番目。父母は5人の子を置いて離婚しました。母の手一つで私たち5人を育ててくれた母の苦勞は並大抵ではなかったと思います。進学のあきらめ、15歳で東京に出て国立市の「やぶそば」でそば打ちの修行を20年。1千万円の貯金を持って楢葉に帰りました。「もうそろそろ、帰ってきたら」——年老いて淋しくなったのか、母の願いもあつての帰郷でした。

帰郷した私は、楢葉町の鐘突堂9番地に、そば処「やぶそば」を出しました。貯金と兄弟からの援助、アルバイトもしました。お客さんにも喜んでもらえ、店は繁盛とみなさんが声をかけてくれました。借金も返し、数年後に自宅も建てました。店が忙しのを見かねて、「夜だけでも少

し手伝いしようか」と声をかけられたのは、近所で2人の子を育てながら美容室を手伝っていた女性でした。やがて私たちは結婚し、2人の子供も生まれ、妻の連れ子が男の子と女の子。産まれた子どもも男の子と女の子。4人の子持ちになりました。上の2人はもう結婚をして別に所帯を持っています。東京に避難してきたのは下の子どもと私たち夫婦の4人。そしてまさかの大震災・原発の爆発・放射能汚染。誠実な心がけ、これからも一生懸命やろうと心に刻んでいた私の人生を、何でひっくり返してくれたのか! 働きの目を、父母は私を頼りました。幸いに避難先でいい方がたに出会いました。こうした時、誘われました。「税金ムダ遣いウォッチングツアー」でした。すでに今年11回目になり、「被災地の現場を訪ねよう、うち5人をいっしょに行こう」という計画だったので、観光バスにぎっしり乗りました。途中で、長年原発運動をされてきた伊東達也先生も乗り込まれて、ゴーストタウンと化した町々を見学しながらお話を聞き取りました。崩れた家々、時計が2時47分で止まったまま壊れたショーウィンドウのガラスからはみ出すように見えた店。ツアー参加者からため息がもれました。バスは、私の店「やぶそば」の前を通り、アルバイトもしていました。お客さんにも喜んでもらえ、店は繁盛とみなさんが声をかけてくれました。借金も返し、数年後に自宅も建てました。店が忙しのを見かねて、「夜だけでも少

とはできないでしょう。これからまだまだ働ける、一生懸命頑張ろうという矢先の7歳での被災でした。

これから一体どうなるのか、岩手・宮城・福島の3県の復興は3.3%しかすすんでいません。自宅の再建に新たなローンを組むことなどむずかしい。

こうした苦しみの中、今でさえ弱い立場の人を苦しめている消費税を8%、10%にするなど、とてもないことです。生き死にの問題です。2020年東京オリンピックが騒がれています。安倍首相は「復興が進みはじめた」「放射能の汚染は止められている」などと言っていて、さらに原発を再稼働するとか、海外に輸出するとか言っています。被災国民の気持ちを少しも汲み取ることのない発想に、怒りがこみ上げます。

被災者の一人ひとりにはかけがいのない人生があり、一生懸命生きようと努力していた人びとを、このおびただしい災害。ことに原発の事故により、人生がまったく変えられてしまったことは痛恨の極みです。後ろを振り返れば泣き止まない。だから前だけ見て生きようと思うわけですが、辛いです。でも、子どもたちのために生きなければならぬと考えています。この辛さは被災者でなければわかってもらえないだろうと思いますが、支えてくださるみなさんの力を借りてがんばります。

原発の放射能と消費税は色もついでないけれども同じです。しかし、大企業が国民の命をないがしろにして金儲け第一主義の結果が招いた未曾有の犯罪です。子どもたちに奪った健康と消費税のない国を築きましょう。

楢葉町では「やぶそば」が再開したからといってそばを食べてはいけない約束していません。